

フランス語ステップアップ講座

科目責任者：河合孝昭（基本医学）

I. 前文

本講座は第1学年におけるフランス語の基礎学習を修了した学生（2～5年）を対象とし、既習事項を復習するとともに、ヨーロッパ言語共通参照枠A1（基礎）レベルの学習事項をもれなく習得することによって、さらに上のレベルへとステップアップする足がかりをつかむことを目的とする。

II. 受入可能人数

若干名

III. 担当教員

河合孝昭（基本医学）

IV. 学習内容

1. 第1学年で学んだ基礎事項を復習するとともに、ヨーロッパ言語共通参照枠A1レベルの文法項目を網羅的に学習する。
2. 上記の文法知識を定着させ、実用性を高めるために、会話・作文・読解の演習を行う。

V. 学修の到達目標

1. 選択必修科目「フランス語」において学んだ基礎知識を定着させる。
2. ヨーロッパ言語共通参照枠A1（基礎）レベルの文法知識をもれなく習得する。
3. 上記の文法的知識を、会話・作文・読解に生かすことができる。

VI. 成績評価の方法・基準

筆記試験（小テストを含む）および口頭試験によって評価する。

VII. 使用する教材・資料など

受講者のレベルにあわせて適切な教材を決定する。

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。メール（wspinoza6@gmail.com）での質問も可とする。

IX. 求められる事前学習、事後学習*（ ）内は所要時間の目安

事前学習：教員の指示に従って単語を調べたり文法事項を確認したりすること。（60分）

事後学習：教員の指示にしたがって授業中に学んだことをノートに整理し、与えられた課題を実施すること。（60分）

X. コアカリ記号・番号

A-4-1 コミュニケーション（p. 17）

（学修目標：②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる）

A-7-2 国際医療への貢献（p. 19）

（学修目標：①患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語に対応することができる）

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

筆記試験および口頭試験の結果を講評・解説します。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | | |
|--------------------------|--|---|
| 医学知識 | 人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。 | |
| | 種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。 | |
| 臨床能力 | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。 | |
| | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。 | |
| プロフェッショナリズム | 医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。 | |
| | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | |
| 能動的学修能力 | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。 | |
| | 書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。 | |
| リサーチ・マインド | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。 | |
| | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。 | |
| 社会的視野 | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。 | |
| | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。 | |
| 人間性 | 医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ○ |
| | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ◎ |